



## IP Address Manager

### 入門ガイド

Rev.1.0

2022.06.21

---

目次お問合せ先、およびカスタマーポータル.....	1
1 SolarWinds IPAM を使い始めるには?.....	2
2 IPAM に IP アドレスを設定する.....	4
2.1 ネットワークデバイスのディスカバリー.....	4
2.2 ディスカバリーされたデバイスを SolarWinds IPAM に追加する.....	9
2.3 IP アドレスのインポート.....	11
3 DHCP サーバーを追加する.....	18
4 DNS サーバーを追加する.....	19
5 DHCP スコープを作成する.....	21
6 IP アドレスを予約する.....	22
7 サブネットグループの作成.....	24
8 サブネットの読み取り及び書き込みアクセス権をユーザーに付与.....	27

#### 変更履歴

版	発行日	変更内容
Rev. 1.0	2022/06/21	初版作成

---

## お問合せ先、およびカスタマーポータル

ジュピターテクノロジー株式会社 (Jupiter Technology Corp.)

住所: 〒183-0023 東京都府中市宮町 2-15-13 第 15 ミツ木ビル 8F

URL: <https://www.jtc-i.co.jp/>

電話番号: 042-358-1250

FAX 番号: 042-360-6221

ご購入のお問い合わせ:

お問い合わせ <https://www.jtc-i.co.jp/contact/scontact.php>

メール [sales@jtc-i.co.jp](mailto:sales@jtc-i.co.jp)

製品サポートのお問い合わせ:

カスタマーポータル <https://www.jtc-i.co.jp/support/customerportal/>

評価版のダウンロード: <https://www.jtc-i.co.jp/support/download/>

---

## 1 SolarWinds IPAM を使い始めるには?

SolarWinds IP Address Manager (IPAM) は、SolarWinds Orion Web Console で統合され、DHCP 及び DNS 管理、IPv4 ・ IPv6 アドレスの管理サービスを提供します。

IPAM の管理機能は以下の通りです。

- 一元化された IP アドレス管理
- DHCP と DNS の統合管理
- Web ベースのレポートとアラート
- IPv4 の拡張 API サポート
- Amazon Route 53 と Azure DNS の監視
- IP アドレスリクエスト

IPAM 管理機能の詳細については、「[IPAM 管理者ガイド](#)」を参照してください。

IPAM に関するビデオは、[SolarWinds IP アドレスマネージャで変更を管理し、コストのかかるエラーを回避する](#)をご視聴ください。

このガイドを使用して、SolarWinds IPAM を設定し、デバイスを IPAM に追加して、IP アドレス、DHCP サーバーとスコープ、DNS サーバー、および DNS ゾーンを管理および監視します。

**お客様向け:**このガイドの推奨事項に従って、システム機能が正しく、実稼働環境の HW サイジングが正しいことを確認してください。評価時に使用する最小システム要件は、運用環境には不十分です。[SolarWinds カスタマーポータル](#)からライセンスを取得したソフトウェアにアクセスします。実装に関するサポートが必要な場合は、[サポートチーム](#)にお問い合わせください。

**評価者様向け:**SolarWinds IPAM を評価する場合は、[30 日間の無料評価版をダウンロードしてください](#)。SolarWinds IPAM の評価版は、製品のフルバージョンで、30 日間機能します。評価期間が過ぎたら、評価ライセンスを運用ライセンスに変換できます。サポートが必要な場合は、[sales@solarwinds.com](mailto:sales@solarwinds.com) までお問い合わせください。

SolarWinds IPAM の使用を開始するには、次のタスクが必要です。

#### SolarWinds IPAM をインストールします。

SolarWinds Orion インストーラーを使用して IPAM をインストールします。これはオールインワンアプリケーションであり、お客様の環境にわかりやすいインストールパスを提供し、すべての SolarWinds Orion プラットフォーム製品のすべての製品のインストールとアップグレードをガイドします。

#### デバイスをディスカバリーします。

Network Sonar Discovery ウィザードを使用してネットワーク デバイスをディスカバリーするか、インポート ウィザードを使用して IP アドレスとサブネットを手動でインポートします。

#### ディスカバリーされたデバイスを SolarWinds IPAM に追加します。

ウィザードを使用して、IPAM で監視するディスカバリーされたデバイスを選択します。

#### DNS サーバーと DHCP サーバーを追加します。

DHCP または DNS サーバーを IPAM と統合して、1 つの WEB インターフェイスで管理します。

#### DHCP スcope内の IP アドレスを予約します。

DHCP スcope内の IP アドレスを予約して、サーバーが再起動するたびにデバイスが同じ IP アドレスを受け取るようにします。

#### サブネットグループを作成します。

サブネットグループを作成して、定義された IP アドレスのセットを整理および管理します。

#### サブネットに対する読み取りおよび書き込みアクセス権をユーザーに付与します。

必要なネットワーク管理アクティビティを委任する機能を制限することなく、セキュリティを維持するためにユーザー アクセスを制限します。

IPAM の長期的な運用を成功させるには、このドキュメントのガイドラインに従ってください。ワークロードにもよりますが、IPAM の使用を開始するのに 1 週間以内には完了できます。

---

## 2 IPAM に IP アドレスを設定する

このセクションには、次のトピックが含まれています。

- [ネットワークデバイスのディスカバリー](#)
- [ディスカバリーされたデバイスを SolarWinds IPAM に追加](#)
- [IP アドレスのインポート](#)

### 2.1 ネットワークデバイスのディスカバリー

IP Address Manager (IPAM) は、SolarWinds Orion プラットフォーム 製品スイートの一部として、またはスタンドアロンアプリケーションとして使用するよう設計されています。すでに Orion プラットフォームを使用して環境を監視しており、ノードと関連要素のデータベースを作成している場合は、このセクションをスキップして、[IPAM 監視用のノードの追加](#)を開始できます。

ディスカバリーは、SolarWinds Orion がネットワーク要素を識別するために使用するプロセスです。

ウィザードの進行時に表示されるタブは、インストールした SolarWinds Orion 製品によって異なります。「次へ」をクリックして、次のタブに移動します。

1. 次のいずれかの方法で Orion Web コンソールを起動します。

- SolarWinds Orion プログラムフォルダから Orion Web コンソールを起動します。

または、

- ブラウザを起動し、次のように入力します。

`http://ip_address`

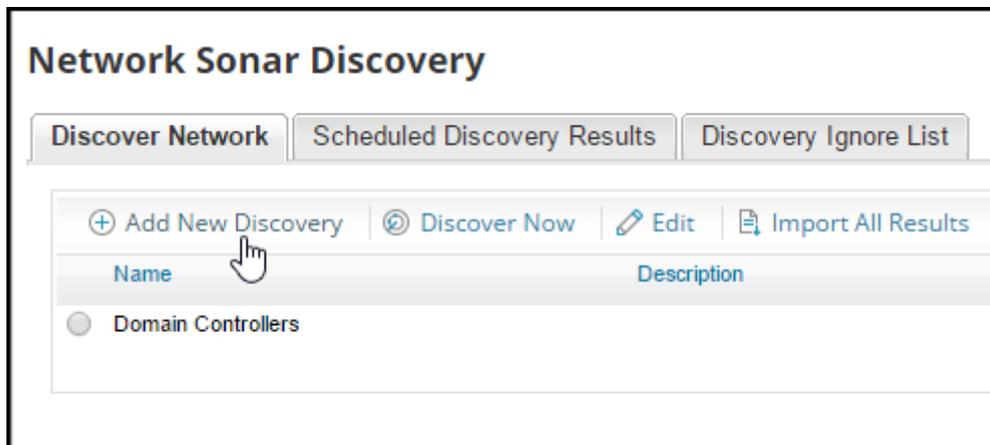
または、

---

`http://hostname`

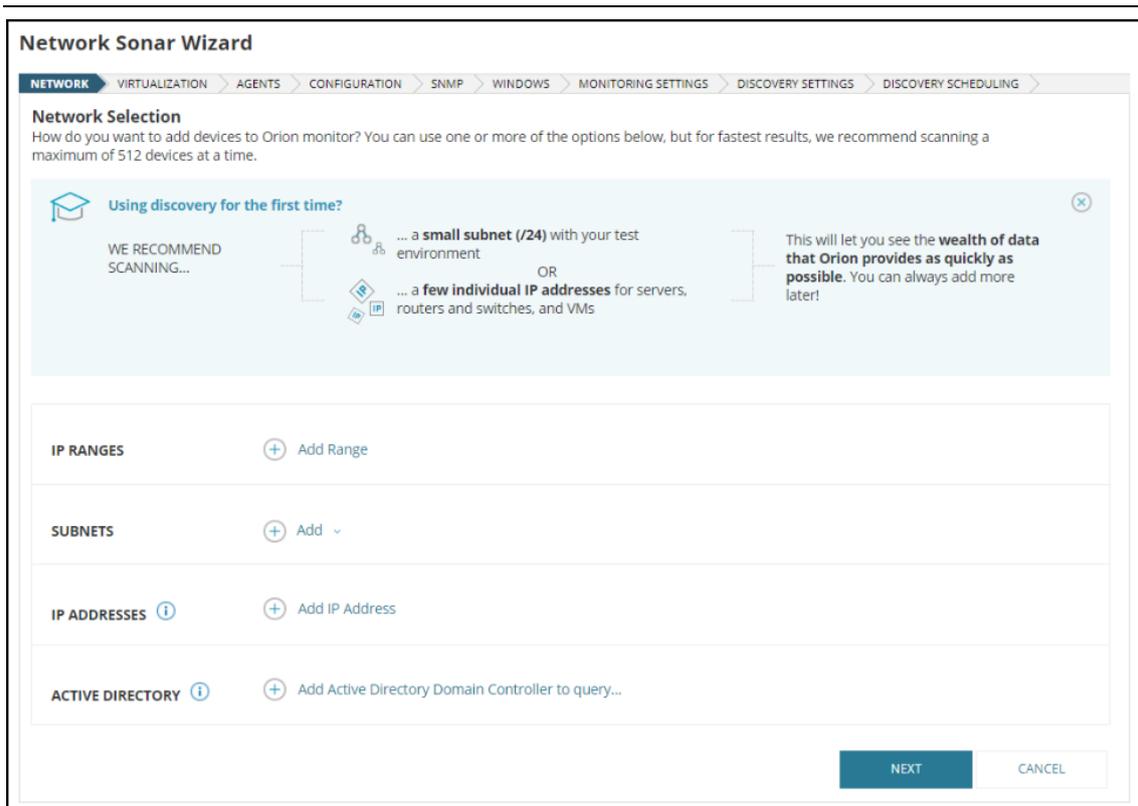
ここで、`ip_address` は SolarWinds Orion サーバーの IP アドレス、`hostname` は SolarWinds Orion サーバーのドメイン名です。

2. ユーザー名と管理者パスワードでログインします。
3. 「Network Sonar Discovery」ページが表示されたら、「新規ディスカバリーを追加」をクリックします。



ディスカバリーウィザードが表示されない場合は、[設定]>[ネットワーク探索の設定] > クリックします。

4. 「Orion コンソールへようこそ」ページで、「開始」をクリックします。Network Sonar ウィザードが表示されます。



Network Sonar ウィザードに表示されるタブは、インストールした SolarWinds 製品によって異なります。

このウィザードでは、いくつかの方法でデバイスをディスカバリーできます。

- 監視する IP アドレスの範囲を入力する。
- IP アドレスのリストを入力する。
- Active Directory ドメイン コントローラーにクエリを実行してノードを追加する。
- サブネットまたはシードルーターの IP アドレスを入力する。

開始時の最も簡単な方法は、IP アドレスの範囲を指定することです。

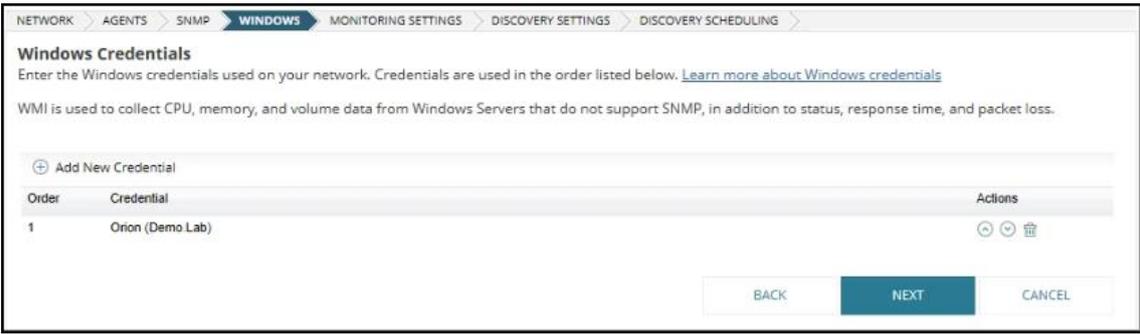
## 5. 以下参照

代わりに Active Directory ドメイン コントローラーを使用する手順については、[「Active Directory ドメイン コントローラーを使用してデバイスをディスカバリーする」を参照してください。](#)

6. [範囲の追加] をクリックします。
7. 監視する開始 IP アドレスと終了 IP アドレスを入力し、「次へ」をクリックします。
8. 「エージェント」タブで、エージェントを使用して現在ポーリングされているすべてのノードに変更の更新を確認する場合は、このチェックボックスをオンにし、「次へ」をクリックします。
9. [SNMP]タブで、次の操作を行います。
  - a. ネットワーク上のすべてのデバイスがデフォルトの SNMPv1 および SNMPv2 public および private・コミュニティー・ストリングのみを必要とする場合は、「次へ」をクリックします。
  - b. ネットワーク上のいずれかのデバイスが public または private 以外のコミュニティー・ストリングを使用する場合、または SNMPv3 資格情報を使用する場合は、「新規資格情報の追加」をクリックして必要な情報を入力し、「次へ」をクリックします。

Windows サーバーで SNMP サービスが有効になっている場合、SNMP 資格情報は DHCP および DNS 管理に関する情報を取得しません。

10. [Windows 資格情報] タブで、[新しい資格情報の追加] をクリックし、SNMP をサポートしない Windows デバイスをディスカバリーする場合、または SNMP がポーリングしない追加情報を収集する場合は、必要な情報を入力します。



The screenshot shows the 'Windows Credentials' configuration page. At the top, there is a breadcrumb trail: NETWORK > AGENTS > SNMP > WINDOWS > MONITORING SETTINGS > DISCOVERY SETTINGS > DISCOVERY SCHEDULING. Below the breadcrumb, the title is 'Windows Credentials'. The text reads: 'Enter the Windows credentials used on your network. Credentials are used in the order listed below. [Learn more about Windows credentials](#)'. Below this, a note states: 'WMI is used to collect CPU, memory, and volume data from Windows Servers that do not support SNMP, in addition to status, response time, and packet loss.' There is a '+ Add New Credential' button. Below that is a table with columns 'Order', 'Credential', and 'Actions'. The table contains one row: '1', 'Orion (Demo Lab)', and three action icons (refresh, delete, add). At the bottom right, there are three buttons: 'BACK', 'NEXT', and 'CANCEL'.

SolarWinds は、この追加情報を取得するために、SNMP ではなく WMI を使用して Windows デバイスを監視することを推奨しています。

11. [監視設定]タブで、SolarWinds は初めてディスカバリーを実行するときに手動で監視を設定することを推奨しています。これにより、ディスカバリーされたオブジェクトのリストを確認し、(すべてを自動的に監視するのではなく)監視するオブジェクトのみを選択できます。

The screenshot shows the 'Monitoring Settings' page of the Network Sonar Wizard. The breadcrumb trail is: NETWORK > VIRTUALIZATION > AGENTS > CONFIGURATION > SNMP > WINDOWS > MONITORING SETTINGS > DISCOVERY SETTINGS > DISCOVERY SCHEDULING. The page title is 'Monitoring Settings' with the subtitle 'Specify how devices should be polled. You can choose what to monitor before the discovery begins, or after it has completed.'

**DEVICE/NODE POLLING**

Include devices/nodes that respond to ICMP (ping) alone.  No  
Devices that respond to SNMP or WMI will still be imported.

Preferred Polling Method:  WMI  SNMP ⓘ

**HOW WOULD YOU LIKE TO SET UP WHAT TO MONITOR?**  
How would you like to set up what to monitor?

- Manually set up monitoring after devices are discovered** ⓘ  
Select this option to choose what to monitor based on what is found during the discovery. You have more control over what is included or excluded, but you must complete another wizard to finish the discovery process. Devices are not imported until you complete the Network Sonar Results wizard.
- Automatically monitor based on my defined monitoring settings** ⓘ  
Select this option to choose what to monitor upfront in Define Monitoring Settings. You have less control over what is included or excluded, but your monitored devices are selected in a single wizard. Devices are automatically imported and monitoring is set up according to your settings when you complete the Network Sonar Wizard.

DEFINE MONITORING SETTINGS...

Buttons: BACK, NEXT, CANCEL

12. 「ディスカバリー設定」パネルで、このディスカバリーの名前と説明を入力し、「次へ」をクリックします。
13. デフォルトの頻度を受け入れ、すぐにディスカバリーを実行します。

ディスカバリー設定に満足したら、このタブに頻度を追加して、スケジュールに従ってこのディスカバリーを実行できます。

The screenshot shows the 'Discovery Scheduling' page of the Network Sonar Wizard. The breadcrumb trail is: NETWORK > VIRTUALIZATION > AGENTS > CONFIGURATION > SNMP > WINDOWS > MONITORING SETTINGS > DISCOVERY SETTINGS > DISCOVERY SCHEDULING. The page title is 'Discovery Scheduling' with the subtitle 'Configure a schedule for your discovery.'

Frequency: Once ▼

Execute immediately:  Yes, run this discovery now  No, don't run now

Buttons: BACK, DISCOVER, CANCEL

ディスカバリーには、システムがディスカバリーするネットワーク要素の数に応じて、数分から数時間かかることがあります。ディスカバリーが完了したら、Network Sonar の結果ウィザードを使用して、[ディスカバリーされたデバイスを追加](#)できます。

## 2.2 ディスカバリーされたデバイスを SolarWinds IPAM に追加する

ウィザードがネットワーク上のデバイスをディスカバリーすると、[結果] 画面が開き、ネットワーク要素を SolarWinds Orion データベースにインポートできます。ディスカバリーされた要素は、ライセンス数にカウントされません。Orion データベースにインポートされた要素のみがライセンスに対してカウントされます。

手動でディスカバリーを実行すると、監視対象のすべてのネットワーク要素が自動的に選択されます。監視しない要素のチェックボックスをオフにする必要があります。

ネットワークを初めてディスカバリーする場合は、少数のデバイスを監視することをお勧めします。

ネットワークのディスカバリーが完了したら、ウィザードを使用して、監視するデバイスを選択します。

1. 監視する装置タイプのみが選択されていることを確認し、「次へ」をクリックします。

<input checked="" type="checkbox"/>	Count	Device Type
<input checked="" type="checkbox"/>	1	Windows 2016 Server
<input checked="" type="checkbox"/>	7	Windows 2012 R2 Server

2. 「ポート」タブが表示されたら、監視するポートを選択し、「次へ」をクリックします。

[ポート] タブは、SolarWinds Orion [User Device Tracker \(UDT\)](#) がインストールされている場合のみ使用できます。

3. 監視するボリュームタイプが選択されていることを確認し、「次へ」をクリックします。SolarWinds では、コンパクトディスクまたはリムーバブルディスクを監視しないことをお勧めします。

**Network Sonar Results Wizard**

DEVICES > PORTS > **VOLUMES** > IMPORT PREVIEW > RESULTS

**Volume Types to Import**  
Select the volume types to monitor.

<input checked="" type="checkbox"/>	Count	Volume Type
<input checked="" type="checkbox"/>	8	RAM
<input checked="" type="checkbox"/>	8	Virtual Memory
<input checked="" type="checkbox"/>	16	Fixed Disk
<input type="checkbox"/>	3	Compact Disk

BACK NEXT CANCEL

4. インポートする要素のリストを確認し、「インポート」をクリックします。

**Import Preview - NOCDOCSMPE01V**  
Select devices and volumes that you wish to ignore or import. All ignored items will be removed from this list and will not be found during any future network discovery, manual or scheduled. If you wish to ignore items, do so before importing.

<input checked="" type="checkbox"/>	Polling IP Address	Name	Machine Type	Volumes	Polling Method	UDT Port Count
<input checked="" type="checkbox"/>	10.1.40.7	EASTADDS01V	Windows 2012 R2 Server	RAM, Virtual Memory, Fixed Disk (2)	WMI	0
<input checked="" type="checkbox"/>	10.1.40.8	EASTADDS02V	Windows 2012 R2 Server	RAM, Virtual Memory, Fixed Disk (2)	WMI	0
<input checked="" type="checkbox"/>	10.1.100.7	NOCEADDS01V	Windows 2012 R2 Server	RAM, Virtual Memory, Fixed Disk (2)	WMI	0
<input checked="" type="checkbox"/>	10.1.100.8	NOCEADDS02V	Windows 2016 Server	RAM, Virtual Memory, Fixed Disk (2)	WMI	0
<input checked="" type="checkbox"/>	10.21.40.7	NEWYADDS01V	Windows 2012 R2 Server	RAM, Virtual Memory, Fixed Disk (2)	WMI	0
<input checked="" type="checkbox"/>	10.129.40.7	WESTADDS01V	Windows 2012 R2 Server	RAM, Virtual Memory, Fixed Disk (2)	WMI	0
<input checked="" type="checkbox"/>	10.129.40.8	WESTADDS02V	Windows 2012 R2 Server	RAM, Virtual Memory, Fixed Disk (2)	WMI	0
<input checked="" type="checkbox"/>	10.149.40.7	LOSAADDS01V	Windows 2012 R2 Server	RAM, Virtual Memory, Fixed Disk (2)	WMI	0

BACK IGNORE **IMPORT** CANCEL

- 
5. インポートが完了したら、「結果」パネルの「完了」をクリックします。
  6. [マイ ダッシュボード] > [IPAM の概要] をクリックして、ネットワークの探索を開始します。

## 2.3 IP アドレスのインポート

IPAM は、このトピックで説明するスプレッドシートからインポートするか、[サブネット /CIDR プレフィックスを入力して一括追加](#)するかの 2 つの方法で、IP アドレスとサブネット データをネットワークに簡単にインポートする方法が用意されています。

IPAM 2019.4 以降のリリースでは、IPv6 アドレスをインポートおよびエクスポートできます。

IP アドレスのエクスポートについては、「[サブネットのエクスポート](#)」を参照してください。

### ・ スプレッドシートからのインポート

IPAM インポートウィザードを使用すると、スプレッドシートに保持されている IP アドレス、サブネットおよびネットワークデータを簡単にインポートできます。IPv4 および IPv6 グループ、スーパーネット、IPv6 グローバルプレフィックス、およびネットワークの階層構造をインポートできます。

インポートされたデータは、ユーザーの委任権限を尊重します。

インポートされたすべてのスプレッドシートには、一意の列名を持つヘッダ行が必要です。各列をインポート先のフィールドに関連付けることができるため、IPAM フィールド名と一致する必要はありません。IPAM に対応するフィールドがない列は、ユーザー設定フィールドとして追加できます。

サブネットスプレッドシートには、各行の IP アドレスが含まれています。IP アドレスのみが必須です。

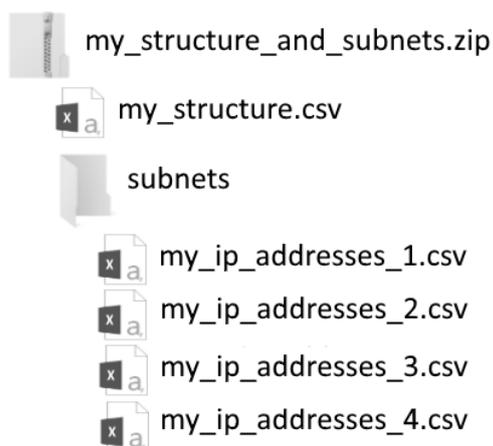
	A	B	C	D	E	F
1	IP Address	MAC Address	Hostname	DHCP Client Name	System Name	Description
2	10.0.0.0					
3	10.0.0.1					
4	10.0.0.2	00:0A:E6:3E:FD:E1	UBUNTU-01.ImportSample		Ubuntu-01	Linux Ubuntu-01
5	10.0.0.3	00:0A:E6:3E:FD:E2	Windows.ImportSample		DVB	Hardware: Intel64 Family 6 Model 94
6	10.0.0.4					
7	10.0.0.5					
8	10.0.0.6	00:0A:E6:3E:FD:E5				

構造スプレッドシートの場合、各オブジェクトのタイプのみを指定する必要があります。これには、Group、Supernet、Subnet、IPv6Subnet、GlobalPrefix、PrefixAggregate などがあります。

	1	2	3	4	5
1	Address/CIDR	Address	CIDR	Type	Display Name
2	10.0.0.0/26	10.0.0.0	26	Subnet	Imported Subnet
3	10.0.0.0/24	10.0.0.0	24	Group	Imported Folder
4	10.0.0.0/24	10.0.0.0	24	Supernet	Imported Supernet
5	1000:0000:0000:0000/64	1000:0000:0000:0000	64	IPv6Subnet	Imported IPv6 Subnet
6	1000:0000:0000:0000/52	1000:0000:0000:0000	52	PrefixAggregate	Imported IPv6 Site
7	1000:0000:0000:0000/48	1000:0000:0000:0000	48	GlobalPrefix	Imported GlobalPrefix

サブネットまたは構造スプレッドシートは、個別の.csv、.xls、または.xlsx ファイルとしてインポートできます。

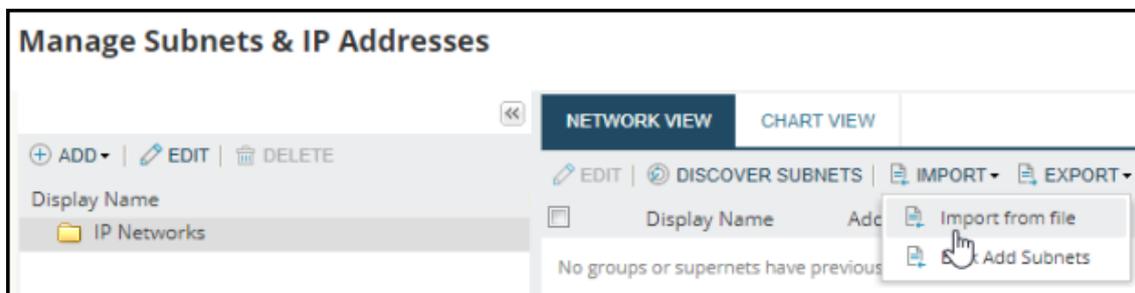
サブネットスプレッドシートが関連付けられた構造スプレッドシートをインポートするには、サブネットスプレッドシートを Subnets というサブディレクトリに保存し、以下に示すように、すべてのファイルを含む zip ファイルを作成します。



データを新規および既存の IP サブネットにインポートして、構造スプレッドシートの階層を保持するか、後で編成するフラットファイル構造を持つインポートされたサブネ

ット・フォルダーにインポートするかを選択できます。

1. [マイダッシュボード]>[IP アドレス]>[サブネットと IP アドレスの管理]に移動します。



2. 「インポート」>「ファイルからインポート」をクリックします。

[スプレッドシートのインポートの準備] ページが表示されます。このページでは、独自のスプレッドシートの作成に役立つサンプルスプレッドシートをダウンロードできます。

3. 「次へ」をクリックして続行します。

[スプレッドシートのインポートの準備] ページを毎回表示しないようにするには、[今後表示しない] チェックボックスをオンにします。

4. 「Browse」をクリックします。
5. 必要なファイルに移動し、[Open]をクリックします。
6. インポートの種類を選択し、[次へ]をクリックします。

**IP Addresses:** IP アドレスの単一のスプレッドシートリストがある場合は、これを選択します。

**Structure only:** IP アドレスの構造を含むスプレッドをインポートする場合に選択します。

**Structure and IP Addresses:** サブディレクトリ内の関連する IP アドレススプレッドシートとともに構造スプレッドシートを圧縮したものを選択します(上記を参照)。



---

## ・ 構造のみをインポートする

1. [Subnet] ページが表示され、IPAM サブネットフィールドと、ウィザードがスプレッドシート内の対応する列と判断した内容が表示されます。これらが正しくない場合、またはフィールドに何もインポートしない場合は、ドロップダウンメニューを使用して代替フィールドを選択します。  
スプレッドシートに該当する列がないフィールドについては、[Do not import]を選択します。  
唯一の必須フィールドは [Type] です。
2. インポートしたサブネットの移動先のオプションを選択し、「次へ」をクリックします。
  - IPAM は、インポートファイルに基づいて選択した場所にサブネット階層を自動的に作成します(階層は保持されます)
  - IPAM はサブネットを「Imported Subnet」フォルダ(フラットファイル構造)にインポートします
3. スプレッドシートに IPAM がデフォルトで使用する追加の列が含まれている場合、これらはカスタムプロパティとしてインポートできます。[Add Custom Property to import a column]をクリックして列をインポートするか、[Add All to import all columns]をクリックしてすべてのカスタムテキストフィールドをインポートします。
4. 「次へ」をクリックします。
5. スプレッドシートの内容が検証されます。エラーが見つかった場合は、戻ってエラーを修正するか、有効なエントリのみをインポートするか、キャンセルするかを選択できます。
6. [Confirm choices] ページで、[Import] をクリックします。  
[The Import Summary page] ページが表示されます。[[Complete the Import](#)] に移動して続行します。

## ・ インポート構造と IP アドレス

1. [Subnet] ページが表示され、IPAM サブネットフィールドと、ウィザードがスプレッドシートの対応する列と判断した内容が表示されます。これらが正しくない場合、またはフィールドに何もインポートしない場合は、ドロップダウンメニューを使用して代替フィールドを選択します。  
スプレッドシートに該当する列がないフィールドについては、[Do not import]を

---

選択します。

唯一の必須フィールドは [Type] です。

2. インポートしたサブネットの移動先のオプションを選択し、「次へ」をクリックします。
  - IPAM は、インポートファイルに基づいて選択した場所にサブネット階層を自動的に作成します(階層は保持されます)
  - IPAM は、サブネットを「Imported Subnet」フォルダー(フラットファイル構造)にインポートします。
3. スプレッドシートに、IPAM がデフォルトで使用する追加列が含まれている場合は、カスタムプロパティとしてインポートできます。[Add Custom Property to import a column]をクリックして列をインポートするか、[Add All to import all columns]をクリックしてすべての列をインポートします。
4. スプレッドシートの内容が検証されます。エラーが見つかった場合は、戻ってエラーを修正するか、有効なエントリのみをインポートするか、キャンセルするかを選択できます。
5. 「次へ」をクリックします。
6. [IP Address] 列の一致 ページが表示され、[IP Address]フィールドと、ウィザードがスプレッドシートの対応する列であると判断した内容が表示されます。これらが正しくない場合、またはフィールドに何もインポートしない場合は、ドロップダウンメニューを使用して代替フィールドを選択します。  
スプレッドシートに該当する列がないフィールドについては、[Do not Import]を選択します。  
唯一の必須フィールドは[IP Address]です。
7. 「次へ」をクリックします。
8. [Confirm choices]ページで、[Import]をクリックします。  
[The Import Summary page]ページが表示されます。[\[Complete the Import\]](#)に移動して続行します。

## ・ インポートの完了

インポートされたが、親サブネットに割り当てられていない IP アドレスの数が表示されます。

1. 「次へ」をクリックします。

---

IP アドレスがインポートされたがサブネットに割り当てられていない場合は、[\[Orphaned IP にサブネットを割り当てる\]](#) ページが表示されます。

すべての孤立した IP アドレスがサブネットに割り当てられるまで、[\[サブネットと IP アドレスの管理\]](#) ページの上部に警告バナーが表示されます。

2. 特定のサブネットに割り当てる IP アドレスを選択します。

- IP アドレスを選択し、「サブネットの割り当て」をクリックしてサブネットを作成し、サブネットを割り当てます。
  - IPv4 アドレスを選択すると、割り当てられていないすべての IPv4 アドレスがこのサブネットに割り当てられます。
  - IPv6 アドレスを選択すると、割り当てられていないすべての IPv6 アドレスがこのサブネットに割り当てられます。

[\[保存\]](#)をクリックしてデフォルトの名前と値を受け入れて後で編集するか、ここでサブネット情報を設定できます。

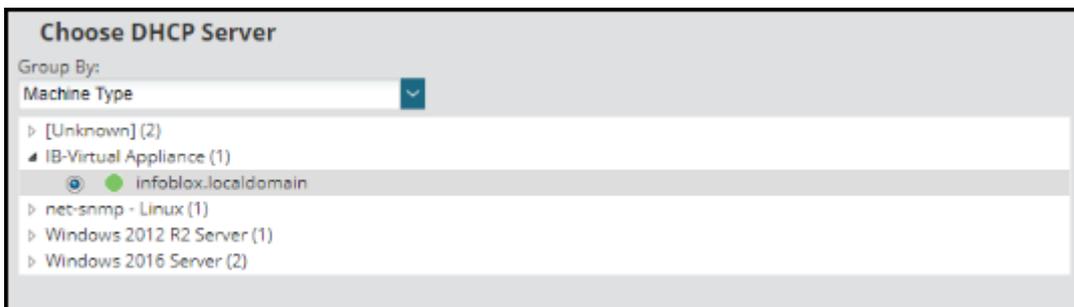
- [\[既存のサブネットに IP を割り当てる\]](#) をクリックして、既に作成されているサブネットにアドレスを追加します。

[\[サブネットと IP アドレスの管理\]](#) ページが表示され、このインポートの結果が表示されます。

### 3 DHCP サーバーを追加する

DHCP サーバーを追加して、スコープと IP アドレスのリースを管理します。スコープは、DHCP サーバーがサブネット上のクライアントにリースする IP アドレスの範囲です。

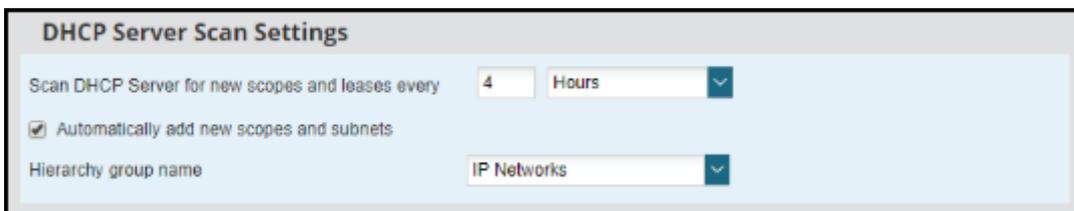
1. [設定] > [すべての設定] に移動します。
2. 「製品固有の設定」セクションの「IPAM 設定」をクリックします。
3. 「DHCP&DNS 管理」セクションの「DHCP サーバーの追加」をクリックします。
4. [DHCP サーバーの選択]ドロップダウンメニューから必要なサーバーを選択します。



5. 資格情報の種類を選択し、資格情報の詳細を入力します。
6. 「TEST」をクリックします。資格情報が選択したサーバーに対して有効な場合は、「Test Successful」というメッセージが表示されます。



7. デフォルトの DHCP サーバー・スキャン設定を選択し、「ADD DHCP SERVER」をクリックします。



### New Scope and Subnet Settings

These settings will be applied upon creation. They can be changed once a subnet or scope has been added to IPAM.

Enable subnet scanning to pick up additional IP Address details

Scan subnets with ICMP and SNMP every  Hours

ADD DHCP SERVER
CANCEL

DHCP サーバーが DHCP & DNS 管理ページに追加され、IPAM は IP アドレスとスコープリースアクティビティのスキャンを開始します。

+ ADD NEW
 SCOPES
EDIT
SCAN
VIEW DETAILS
GRAPH VIEW
ADDRESS LEASES

Server/Scope	Server Type	Failover	Server Address
▶ infoblox.localdomain	Infoblox		10.150.11.253
▶ lab-tex-dc-01	Windows	Enabled	10.199.1.150
▶ lab-tex-dc-02	Windows	Enabled	10.199.1.149

## 4 DNS サーバーを追加する

DNS サーバーは、数値の IP アドレスをドメイン名とホスト名に変換します。ドメイン名が呼び出されると、IPAM はすべての DNS サーバーをスキャンしてその IP アドレスを検索します。

1. [マイダッシュボード]>[IP アドレス]>[DHCP と DNS の管理]をクリックします。
2. 「DNS サーバー」タブを選択し、「新規追加」をクリックして、「DNS サーバー」を選択します。
3. DNS サーバーを選択します。

[グループ化] メニューを使用して、DNS サーバーの並べ替え方法を選択します。

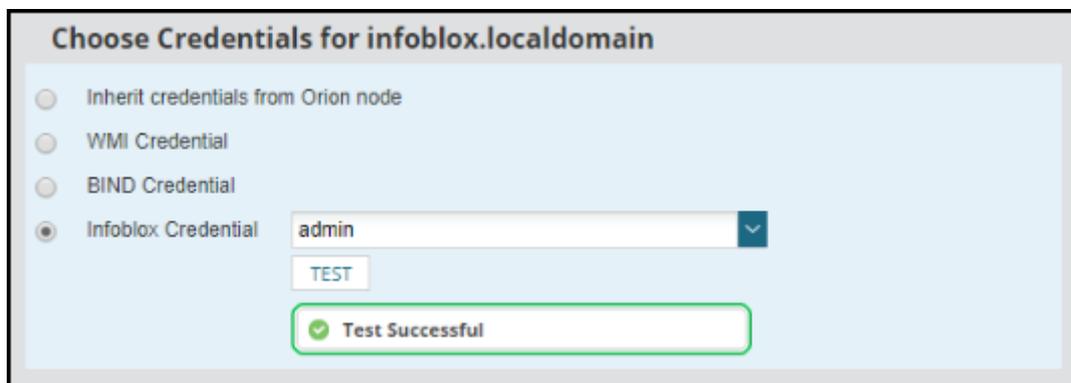
### Choose DNS Server

Group By:

Machine Type

- ▶ [Unknown] (2)
- ▲ IB-Virtual Appliance (1)
  - infoblox.localdomain
- ▶ net-snmp - Linux (1)
- ▶ Windows 2012 R2 Server (1)
- ▶ Windows 2016 Server (2)

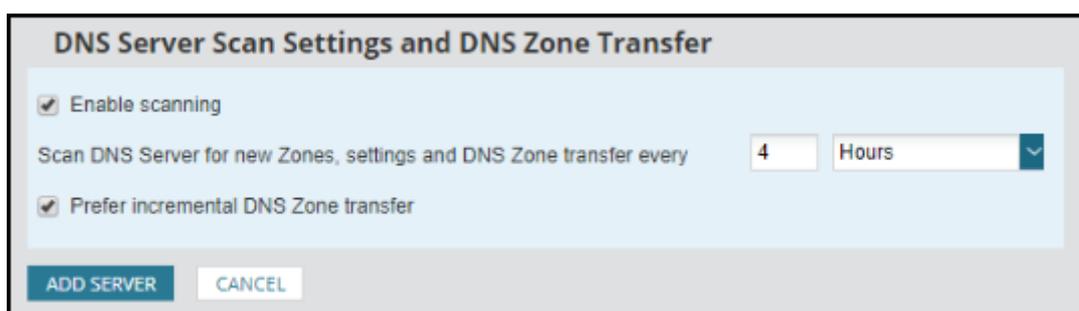
4. DNS サーバーの種類に応じて、Orion ノードの資格情報を使用するか、適切な資格情報の種類を選択して資格情報を指定します。



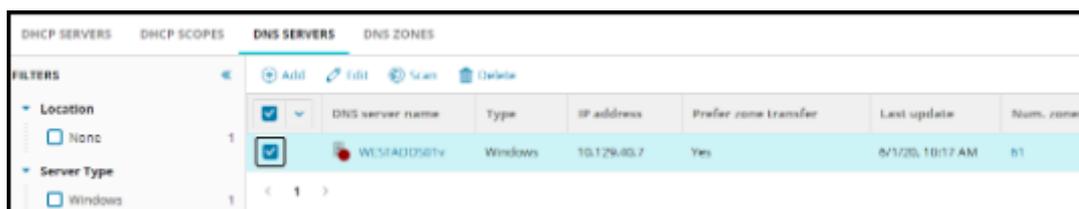
5. 「TEST」をクリックします。資格情報が選択したサーバーに対して有効な場合は、「Test Successful」というメッセージが表示されます。
6. [Enable scanning]を選択して DNS ゾーン転送を有効にし、スキャン間隔を選択します。

IPAM は、この間隔時間に基づいて DNS サーバーをスキャンして、新しいゾーンと設定を探します。

7. 「ADD SERVER」をクリックします。



DNS サーバーが DHCP&DNS 管理ページに追加され、ドメインとホスト名の exchange activity スキャンが開始されます。



---

## 5 DHCP スコープを作成する

DHCP スコープは、DHCP サーバーが DHCP クライアントに動的に割り当てるように設定されているサブネットの IP アドレスの定義済み範囲です。最も単純なセットアップでは、DHCP サーバーはサブネットに対応する単一のスコープを提供します。ただし、サブネットよりも小さいスコープや除外するスコープを作成する必要がある場合があります。

スコープから IP アドレスを除外する理由は次のとおりです。

- DHCP サーバーを実行しているコンピューターでは、静的 IP アドレスの割り当てが必要な場合があります。
- 一部のデバイスは DHCP をサポートしておらず、静的 IP アドレスを必要とする場合があります。

スコープを作成する前に、スコープの開始 IP アドレスと終了 IP アドレスを把握する必要があります。

1. [マイダッシュボード]>[IP アドレス]>[DHCP と DNS の管理]をクリックします。
2. このスコープを作成する DHCP サーバーを選択します。
3. スコープの名前と、可能な場合は追加の詳細を入力し、[次へ]をクリックします。
4. スコープの開始 IP アドレスと終了 IP アドレスを入力し、[次へ] をクリックします。
5. DHCP オファー遅延を 0 ミリ秒のままにして、[次へ]をクリックします。

[オファー遅延] 設定は、このスコープに複数の DHCP サーバーがあり、サーバーがクライアント要求に応答する順序を指定する場合に使用されます。プライマリ DHCP を 0 ミリ秒に設定し、セカンダリを 1000 ミリ秒に設定することで、使用できない場合を除き、プライマリ DHCP サーバーが使用されることが保証されます。

6. 必要な DHCP オプションを追加し、「次へ」をクリックします。

---

「新規オプションの追加」をクリックすると、「DHCP オプションの選択」ウィンドウが表示され、オプションが一覧表示され、それぞれの簡単な説明が表示されます。たとえば、リース期間を設定できます。これは、IP アドレスが最初にクライアントに割り当てられる期間を指定します。デバイスが定期的に追加または交換されない安定した環境では、これはデフォルトの 8 日を超えて安全に増やすことができます。ラップトップなどの一時的なワイヤレスデバイスを含むネットワークの場合は、これを 1 時間に設定することをお勧めします。

7. [スコープの作成] をクリックします。

## 6 IP アドレスを予約する

DHCP スコープの IP アドレスを予約すると、サーバーが再起動してデバイスがディスカバリーされるたびに、デバイスが同じ IP アドレスを受信するようにすることができます。

1. [マイダッシュボード]>[IP アドレス]>[DHCP と DNS の管理]をクリックします。
2. DHCP サーバーを展開し、スコープをクリックして IP アドレスの詳細を表示します。スコープ内の IP アドレスの現在の状態が表示されます。使用可能な IP アドレスは緑色です。
3. 予約する IP アドレスを選択し、[編集] をクリックします。

「IP アドレスの編集」ウィンドウが表示されます。

The screenshot shows the 'EDIT IP ADDRESS' window with the following configuration:

- Subnet: 31.31.31.0 / 24
- IPv4 Address: 31.31.31.4
- Status: Reserved
- Send Reservation to DHCP Server
- Supported Types:
  - DHCP only
  - BOOTP only
  - Both
- DHCP server: lab-tex-dc-01
- File Name: (empty)
- Type: Dynamic
- Node Alias: (empty)
- Hostname: (empty)
- DHCP Client Name: (empty)
- IPv6 Address: (empty)
- Scanning: On, allow system info to be overwritten
- MAC Address: 08:00:27:00:00:00
- Comment: (empty)

4. [ステータス] ドロップダウンから [予約済み] を選択します。
5. [DHCP サーバーに予約を送信する] チェックボックスをオンにします。

このチェックボックスをオフにすると、予約は IPAM データベースでのみ行われ、DHCP サーバーでは行われません。

6. タイプとして「動的」または「静的」を選択します。
7. [DHCP クライアント名] フィールドにデバイスのホスト名を入力します。
8. この IP アドレスを予約するデバイスの MAC アドレスを入力します。
9. 「保存」をクリックします。

この IP アドレスは、このデバイス用に予約され、デバイスがネットワーク上でディスカバリーされたときに割り当てられます。

- **予約済みのアドレスを再び利用できるようにする**

---

このアドレスを予約する必要がなくなった場合は、予約済みステータスを [使用可能] に変更して、アクティブなデバイスの IP アドレスを解放します。

1. 上記の手順に従って手順 3 を実行し、予約済みアドレスを選択します。
2. [ステータス] ドロップダウンから [利用可能] を選択します。
3. 「OK」をクリックします。

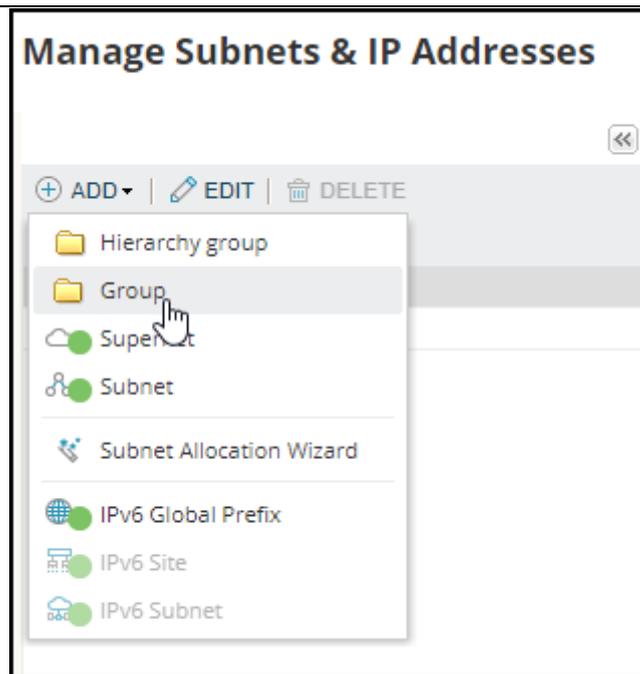
関連装置のデータ・フィールドはブランクアウトされます。

4. [予約を削除] ボックスをオンにします。
5. 「保存」をクリックします。

## 7 サブネットグループの作成

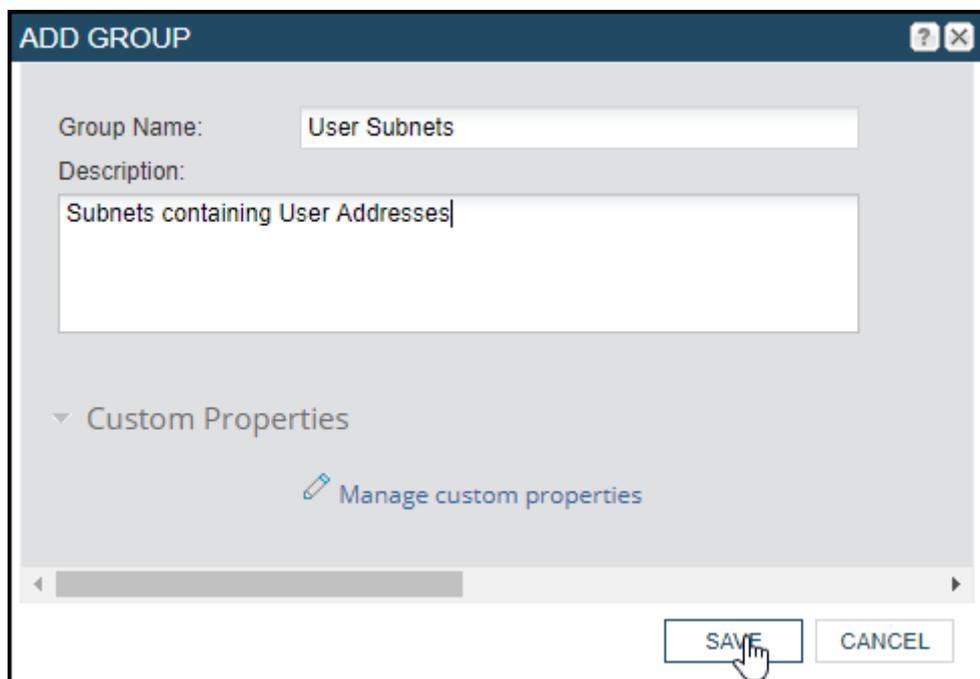
サブネットをグループ化すると、定義された IP アドレスのセットをより適切に整理および管理できます。グループ内のサーバーのステータスと可用性、および IP アドレスの静的割り当てを監視できます。管理者は、サブネット グループを編集、移動、およびエクスポートすることもできます。

1. [マイダッシュボード]>[IP アドレス]>[サブネットと IP アドレスの管理]をクリックします。
2. [追加]>[グループ]をクリックします。

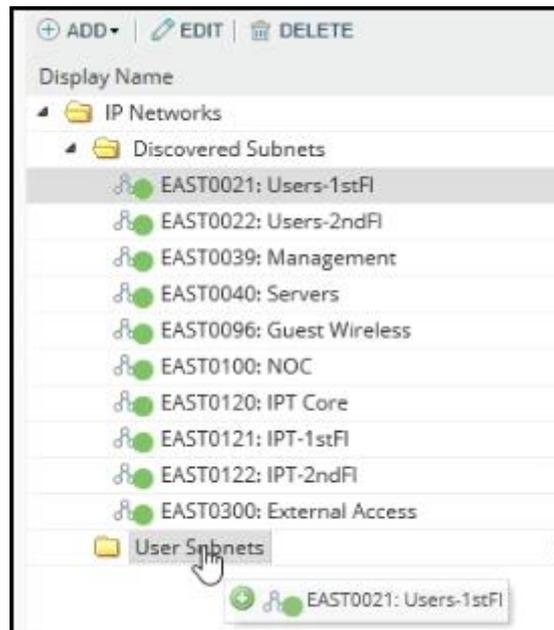


3. 「グループ名」と「説明」を入力し、「保存」をクリックします。

ユーザーサブネットの子フォルダーは、IP ネットワークの親フォルダーの下に作成されます。



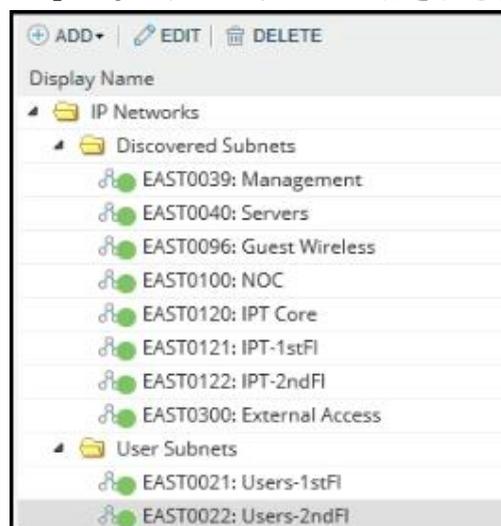
4. サブネットを選択し、[User Subnets] フォルダーにドラッグアンドドロップします。



5. [アカウントの更新] ダイアログ ボックスで、[OK] をクリックします。



ユーザー IP アドレスを含むすべてのサブネットが、簡単にアクセスできるように [User Subnets] フォルダーにグループ化されるようになりました。



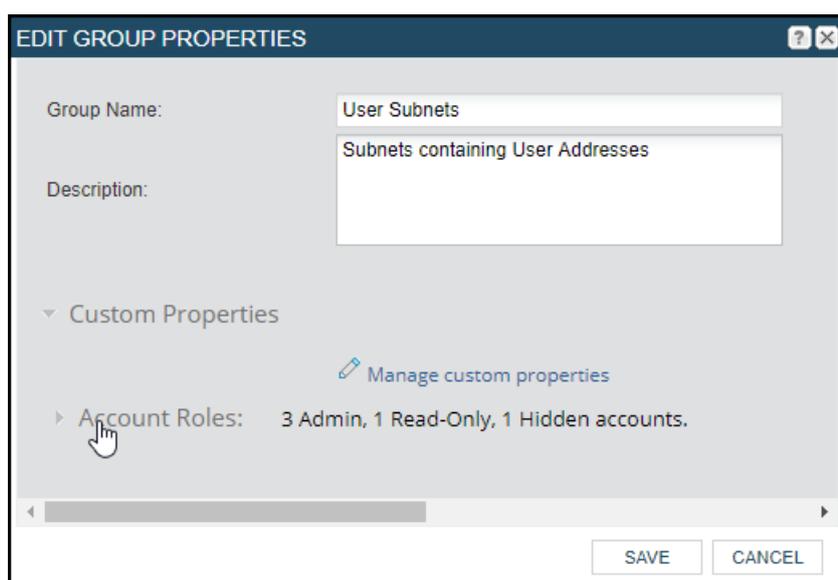
## 8 サブネットの読み取り及び書き込みアクセス権をユーザーに付与

ロール定義を使用してサブネットへのユーザーアクセスを制限し、必要なネットワーク管理アクティビティを委任する機能を制限することなく、セキュリティを維持できるようにします。このトピックでは、「[サブネット グループの作成](#)」トピックで作成した [User Subnets] フォルダーに読み取りと書き込みのアクセス許可を付与します。

1. [マイダッシュボード]>[IP アドレス]>[サブネットと IP アドレスの管理]に移動します。
2. サブネット、スーパーネット、またはグループを選択し、「編集」をクリックします。

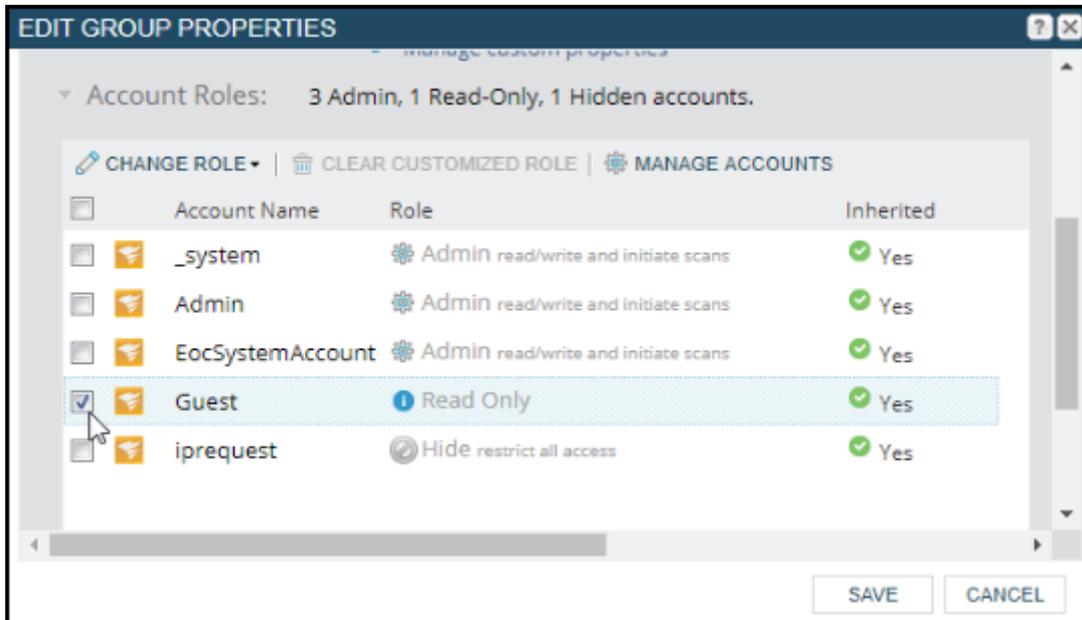


3. 「グループ・プロパティの編集」ウィンドウで、「アカウント・ロール」をクリックします。

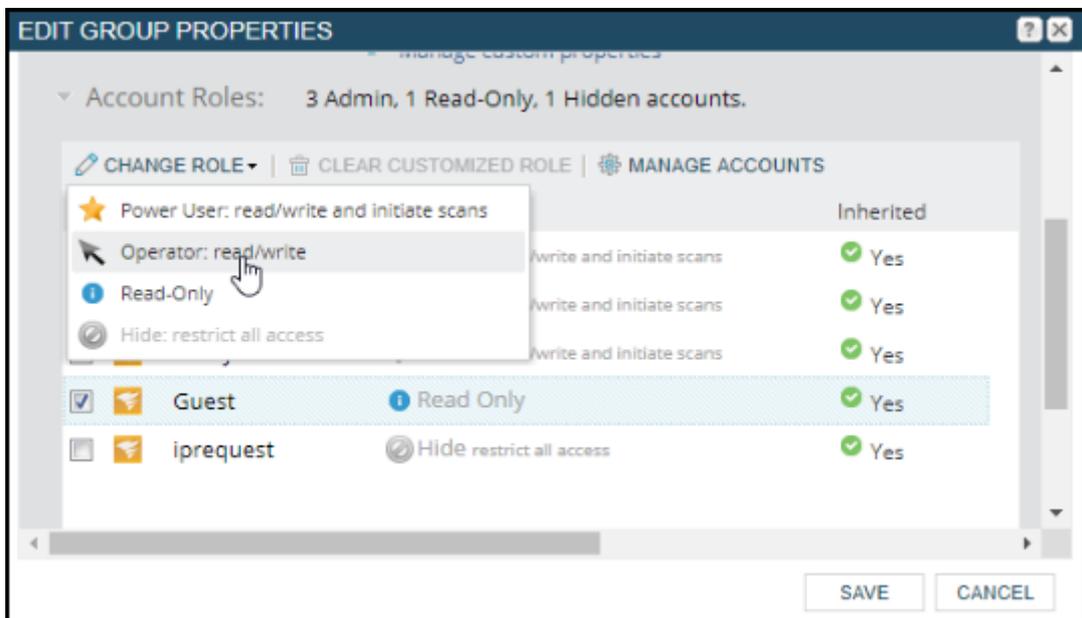


ユーザーのアクセス許可を確認するには、ユーザーのアカウントロールを表示します。

4. アカウント名を選択します。



5. 「CHANGE ROLE」>「Operator: read/write」をクリックします。

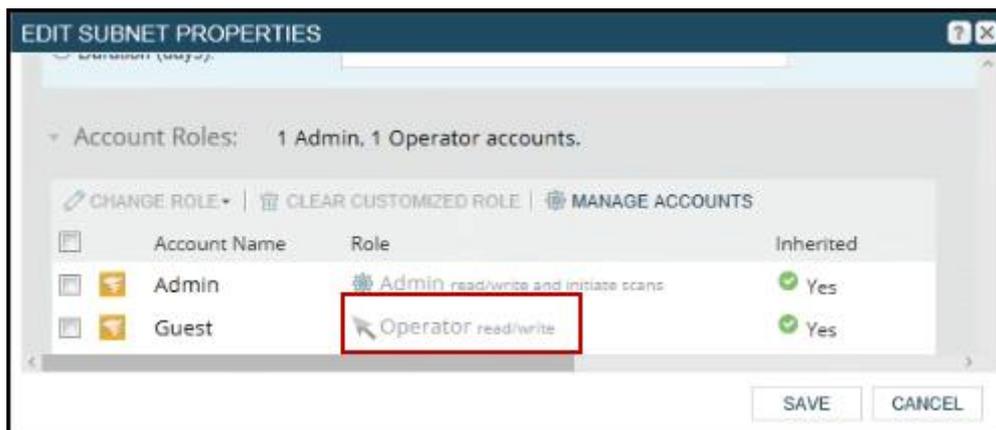


6. 選択内容を確認し、「YES」をクリックします。



7. 「保存」をクリックします。

これで、ゲスト ユーザーは、User Subnets に対して読み取りと書き込みの更新を行うアクセス権を持つようになりました。



日本語ユーザマニュアル発行日 2022 年 06 月 21 日

本書は『[IPAM Getting Started Guide](#)』

(最終更新 2022 年 6 月 dd 日) をベースに編集しています。

ジュピターテクノロジー株式会社 技術グループ